京都帝國大學經濟學會

經濟論叢

第二十二卷　第四號

大正十五年四月一日發行

論叢

動物界の食糧問題……教授　川村多實二

國際課稅における人及び證券の所在……法學博士　神戸正雄

勞農露國における勞働義務……教授　末川博

作州の農民騷動……經濟學士　黑正巖

世界經濟の成立過程……法學士　作田莊一

時論

自作農維持策としての地租免除……法學博士　河田嗣郎

講演

木綿工業經營の現狀一斑……商學士　井上潔

雜錄

總計豫算と純計豫算……法學士　汐見三郎

妙心寺の無盡講……經濟學士　中川與之助

京都帝國大學經濟學部紀要の刊行について……經濟學博士　本庄榮治郎

（禁轉載）

世界經濟の成立過程（三・完）

作田莊一

五　世界經濟の成立

國際經濟交通と萬民經濟交通とは、後者が前者に漸分後れつゝ略ぼ並行して發展し來れるが、二者は其の立脚の地位と發展の方向とを異にするが故に、共に世界の範圍にまで擴大されたる經濟交通でありながら、其一つだけにては世界に於ける經濟交通の系統及秩序の總てを覆ふことが出來ない。各者は地域の範圍より言へば世界大なるも、交通關係の範圍より見れば孰れも世界交通の半面を占め居るに過ぎない。若し領分國家が私人の經濟生活に對し周到なる制規を立て極限まで統制を加へ、私人は又全經濟生活を擧げて其の國家意志の統制に適從するならば、國民經濟の相互交通より成れる國際經濟交通のみが殆ど世界大の經濟交通關係を餘す所なく占め盡くすであらふ。之に反し若し國家が極端まで私人の自由行動を許容し、私人は全經濟生活を擧げて世界に於ける相互の自由交通關係に立つとしたならば、其場合には萬民經濟交通が僅かに政府間の交通を除外するのみにて略ぼ世界大の經濟交通關係と一致することゝなるであらふ。然るに現實の

狀態は其の孰れでもなく、國際的と萬民的との交通關係が並立し相伴して居る。二者は各別の交通系統及秩序を具有するとしても同一の交通地域に於ける交通關係を部分的に占有するに止まり、且つ本質的には共通の自然力の上に立ちて各自が獨特の存立を有して居ない。此點に於て是等二つの交通系統及秩序は、其一つのみにては之を都市經濟や國民經濟の如きと類を同ふする一體の交通經濟と見ることは出來ない。其點は、譬へて言へば恰も、聯邦國家組織に於て各邦を代表する參議院と一般公民を代表する衆議院とが合同して聯邦國家の主權力を構成し一院のみにては獨立の權能なき有樣に似て居る。尙又聯邦國家の生成に於ても最初には先づ各邦間の政治的交通が重要の地位を占め、後に各邦を通じて一般公民の政治的交通が次第に勢力を加へて聯邦組織を完成する。此點は譬喩と云ふよりも寧ろ經濟交通關係と發展形式を共通にするものと見るべく、世界に於ける經濟交通も先づ國際交通が重きをなし其に伴ふて漸次に萬民交通が發展し行くが、併し國際經濟交通も萬民經濟交通も其一つだけにては未だ世界大に廣まれる一體としての交通經濟を構成し得ないで、單に其の半面を占むるに過ぎない。然るに此の二種の交通關係を綜合して見るときは、其處に始めて地域上の範圍のみでなく、社會的に見たる交通關係の範圍に於ても、世界一般に亘る經濟交通の獨特なる一大系統及秩序が看取し得らるゝ。其が卽ち國民經濟と類を同ふし而かも種を異にする一の交通經濟としての世界經濟に外ならぬ。從つて是處では次の

二點が問題となつて來る。先づ國際經濟方面と萬民經濟方面との綜合と言ふことが單に觀念的所造に過ぎないものでなく、現實に斯かる具體的綜合體が存在するものと認められ得るか、次に斯かる綜合體に含まるゝ交通關係が果して國民經濟と異れる獨特の系統及秩序を具ふるものと認められ得るか。私は此の二點を共に肯定して次のやうに說明する。

世界經濟は國際經濟方面と萬民經濟方面との交通系統及秩序が重なり合つた所に成立する。但し二者を區別する所以は其等の交通系統及秩序が性質上異つた立脚地と發展方向とを有すると云ふ點に存し、現實の過程としては二者が各別無緣の發展を遂げ、或時期に至り何かの原因によつて合體し其處に俄かに世界經濟が成立すると言ふ譯ではない。否な寧ろ國民經濟の發達が國際經濟方面を發展せしめ、其國際經濟を條件として萬民經濟方面が發展し、後者の系統及秩序が出來上つた際に於て國際及萬民の二方面を重ね通はして見るときに、其處に世界經濟と名つくる一體の交通經濟が形成され居ることを看取し得るのである。

然らば國際經濟及萬民經濟の二方面が如何にして綜合體を形成するかと云ふに、其は二者の系統及秩序が、共に同一の世界を範圍とし、同一の國民經濟より出發し且つ最後に於て是等を包攝し、而かも斯かる發展過程が同一の自然力によりて出現せるからである。而して又此の自然的綜

合體を特徴付くるものは、主として古今に亙る交通經濟の發達階段の中、特に現在の國民經濟に到りて始めて不完全ながらも意志經濟が成立し、是處に始めて彼と此とを對照し得ることゝなつたと言ふ點に存する。

交通經濟の原始狀態にありては、經濟交通は全交通關係の一部をなし、全團體統制の中に包含され、其處には已に後代の意志經濟の原型が存して居た。其後に交通經濟は、其の交通範圍が擴大され、其の交通內容が複雜となるに從つて、全交通系統及秩序の中に住みながらも而かも特に經濟組織及經濟運營と指稱するに足るだけの特殊なる交通系統及秩序を形成し來つた。然るに其等は、政治交通の系統及秩序が大體に於て意志的存立を有するに比べて寧ろ自然的存立に止まつた。其の交通經濟が前期の國民經濟まで進んで來て、其處から二つの方途に向つて分化した。一方では其國民經濟が後期の意志國民經濟に進展し、他方では其國民經濟が自然の推移に由つて國際的に將た萬民的に世界大の交通關係に入り込んだ。其中でも、國際經濟方面は國民經濟の意志統制を限界として構成され、其の意志統制は成立の日尙ほ淺く政治方面の如くに周到に行はれて居ないから、世界の地域に亘る一切の經濟交通を收容するには、其輪廓が狹隘に失する。斯くて人々は經濟生活を營むに際し、一方では求心的に其所屬の國民經濟をなるべく完全なる組織に進めようとし、他方では遠心的に其所屬の國民經濟に於て充たし難き要求を他の國民經濟の中に於

て遂げようとする。近代に於ける生活交渉に現はれたる二大事實は、人々の團體的自覺と通運機關の進歩とであるが、前者は上述の求心運動を促がし、後者は上述の遠心運動を助けた。斯くて求心運動は國民經濟を自然經濟より意志經濟に進めたるが、此の意志の目的をより善く遂達しようと思へば、求心の樞軸を動かさないで而かも活動の範圍を他の國民經濟との對立に向くるを要し、此の相互に對立せる多くの意志經濟の間に自然に成立せるものが卽ち國際經濟である。而して遠心的に此の樞軸より離れたる箇人意志が相互に其の要求を遂げようとする生活の交渉が等しく自然的に結合關係を成すに至つたものが卽ち萬民經濟である。國際經濟は國民經濟の自然的延長であるが、萬民經濟は國民經濟の自然的反轉である。其處には、吳たり越たる一定數の國民意志が交渉し競合し、之と共に無數の箇人意志が吳越同舟して交渉し競合する。是等の二樣の意志の連續關係は其〻特殊の系統及秩序を顯現するも、歸する所、是等は我等に意識されたる——意志されたのではない——世界に於て、人々の連續及び生活の交渉を世界大に發展せしむる所の自然過程が、國民經濟の意志化と云ふ事實から出發して順次に二つの階級に歩を進めたものに外ならぬ。國際經濟方面と萬民經濟方面とは、本質的には同一の自然力の上に立ち、重複せる組織に於て意志國民經濟を自然的に結合して居る。

意志は箇性を有し、一の意志が他の意志に等しき場合あるべきも二者が同一ではあり得ない。

之に反し自然は、現象に於て種々相を呈し、發展に於て異れる階段を踐むも、自然の力の發動に至りては、彼此に特殊の箇性活動を認むることを得ない。國際經濟及萬民經濟の二方面を貫く自然力は曾て國民經濟に存したる自然力と同一の性質を有する。今了解を容易ならしむる爲めに、先づ世界を範圍とするあらゆる經濟交通が同一の自然力によりて系統及秩序を形成し居れるものと假定しよう。其中にて世界を分割し領有する所の領分國家が其々の領分に於ける經濟交通に對し意志統制を行ふとき、日・支・英・米の國民經濟と云ふが如き箇性を具ふる意志經濟が自然系統及自然秩序より拔け出でゝ其上に打建てらるゝ。是等は國民的には意志なるが、是等が單位となりて構成せらるゝ國際經濟は依然として自然界に居殘り、其中から幾分づゝ國家の作用意志の結合によりて漸次に意志界に進み出でようとして居る。尙ほ其後に殘れるものは全く自然現象としての萬民經濟である。萬民經濟は國際經濟と異つた方面に於て全く自然的に發展せるものであるが、各箇經濟體を單位として構成せられ、更に其等の屬する國民經濟を結び付くる傾向は、恰も領域經濟から自然國民經濟に推移する經路と類似して居る。斯かる傾向をとれる萬民經濟交通が、國際經濟交通の系統及秩序を存立條件として、世界に於ける各箇經濟間並に國民經濟間の交通關係にまで開展し、自然的に一定の系統及秩序を具ふるに至るときは、之に國際經濟上の系統及秩序を受入れて世界交通の自然的・一體的なる系統及秩序に到達するのである。斯くて其處に

成立せる世界經濟は、之を國民經濟の延長として見るときは國際經濟が重視され、之を國民經濟の反轉として見るときは萬民經濟が重視さるゝ。更に其の孰れかの一方を見るに過ぎない場合には、或人は國際經濟と世界經濟とを混同し、他の人は萬民經濟を以て世界經濟なりと指稱する。實際の世界經濟は、國際經濟方面と萬民經濟方面との二つより成れる重複組織として存在するのである。

序でながら國際經濟方面と萬民經濟方面との綜合狀態を解說するに頗る適切と思はるゝ一事例は、國際聯盟に付屬する國際勞働會議である。此會議には各國から政府代表、資本家代表及び勞働者代表の三種の代表委員を出席せしむる。其中、政府代表は各國民經濟の代表であつて自國の利益を伸張し且つ各國間の利益の調和を計るのが其任務である。之と異り資本家代表及勞働者代表は、各自の階級の利益を主張し、出來得る事情の下にては階級間の協調をも計らふとする。資本家代表は數〻國民全般の利益を計ることを標榜するも、其は寧ろ副產物であつて、現時の國民經濟が資本主義制を執つて居ると云ふ因緣から來るのである。同じ理由にて、勞働者代表は數〻政府代表の主張を裏切ることあるも、之れ政府代表の意見が資本家階級の其と同じ側に屬するときに之に反抗して勞働者階級の利益を伸張しようとするからである。若し政府代表が本質的に資本家の代表ならば、二通りの代表は無用な譯である。露西亞が勞働會議に代表者を送るとしたな

らば、其は政府代表兼勞働者代表の一つに止まるであらふ。勞働主義制の下には資本家階級は居ない。資本主義制の下には必ず資本家及勞働者の二階級が存在して各發言權を有し、又國家は國民經濟に於て資本主義側を執る場合にも、當然に二階級の存在と發言權とを承認するを要し、之と同時に斯の如く承認し且又何がより善き經濟組織なるかを思慮しつゝある國家の意志は、當然に國家自らの代表者を有しなければならぬ。國際勞働會議に於ける各國の代表者は斯の如く三通りとなるが、是等は皆な國家から派遣せらるゝが故に、會議の形式上の組織は其名の如く國際經濟會議に外ならぬ。併し此會議を實質的に見れば、政府代表のみが國際經濟方面の代表委員であり、資本家代表及勞働者代表は、各自の國民經濟的利益を考慮する以外に、主として各自の階級の利益を代表するものであり、此點に於ては萬民經濟方面の代表委員と見るも差閊はない。彼等は各國家から派遣され居るも、恰も衆議院議員が各選擧區から選出されながら其選擧區の利益を代表しないやうに、各自の國民經濟の利益を計るのが其任務ではない。資本家及勞働者の代表は、資格に於ては國際經濟會議を構成する委員であるが、其の立場は萬民經濟的であり、國民經濟の萬民的關聯を表明して居る。但し此立場は、必しも徹底しないで、會議構成の形式及び代表者の資格が國際的であるだけに、資本家及勞働者の代表も亦各自の國民的利益を考慮して同じ階級の間に於て相爭ふ場合も少くない。故に國際勞働會議は大體に於て其名の如く國際會議である

が、若し資本家及勞働者の代表が、全く國家の統制より離れて、各國を連ぬる所の資本家組合の聯合會及び勞働者組合の聯合會から選出され、其が政府代表と合して二院組織を構成するならば、其處には明かに世界經濟を構成する國際經濟と萬民經濟との二方面が反映さるゝであらふ。今の國際勞働會議は勿論其のまゝでは世界經濟を縮寫して居ない。併し先きに述べたる如き實質的觀察を試むるならば、之によつて國際經濟と萬民經濟との二方面が綜合されて始めて世界經濟を成立せしむる所以を了解し易からしむるであらふ。

斯の如く世界經濟は、國際經濟方面と萬民經濟方面との交通系統及秩序が自然的に綜合されて一體をなすと云ふ意味に於て、總ての國民經濟の綜合されたるものである。然らば此の綜合體は如何なる點に於て獨特の性質を具へたる一の交通經濟たるを得るか、換言すれば、國民經濟を一の交通經濟と見ながら、同時に其等の結付けられたる交通關係の綜合體を別箇の交通經濟なりと認め得らるゝか。此の點に就ては殆ど縷說を要しないほどに最初から數〻說き及ぼして居つたのであるが、之を要約して言へば、國民經濟と世界經濟とは其組織の本質に於て相違し、其故に二者は其〻獨特の交通經濟として存立し居るのである。

國民經濟は國民を交通範圍となし、世界經濟は世界を交通範圍とするが、國民經濟間の交通を

單に集合的に見るならば、一の國民經濟は他の殆ど總ての國民經濟と交渉するによつて各國民經濟も亦世界を以て交通範圍とする。故に單純に經濟交通の地域的範圍より見れば、國民經濟と世界經濟との區別は認め難い。吾人が、國民經濟は國民を交通範圍となし世界經濟は世界を交通範圍となすと言ふ所の範圍なるものは、經濟交通の系統及秩序の存立する範圍を指すのである。而して斯かる存立は國民經濟と世界經濟とに於て明かに所依を異にし、一が國家の本質意志に依存するに對し、他は本質的に人類自然の制約に依據して居る。恰も所依の經典の何たるかによつて立宗の眼目を異にし別箇の宗派が成立する如くに、經濟交通の系統及秩序が何に依りて存立するかによつて面目を異にする別箇の交通經濟が成立する。國民經濟は世界經濟を包含し得ない、同時に世界經濟も亦國民經濟を包容し得ないのである。

國民經濟も曾ては自然經濟であつた。其階段にありては、如何に國民の對外經濟交通が世界の地域に廣まり居らふとも、未だ國民經濟と區別すべき世界經濟は認定され得ない。又世界經濟が將來に意志經濟に進化するならば、其時には如何に特殊なる交通關係が各國民毎に保存さるゝとしても、もはや世界經濟と區別すべき國民經濟は殘留しないであらふ。現代は正しく其の中間にありて、恰も一面の世界地圖が八方無礙の交通路を畫きながら同時に各國を色別けに區劃する如くに、幾多の世界的商品は國境を知らぬ自然の河流に入りて生產地より消費地に流通すると同時

に、各國の意志は自國の立場から計畫して其の商品の流通を或は促がし或は抑へる。世界經濟の內容は財の流通を主とし、國際立法と雖も概して此の流通を保障しやうとする程度に止まつて居る。國民經濟は世界的流通を出來るだけ自國に有利なるやうに左右しようと試むるが、其は國民經濟が尙ほ流通組織を殘存せしむるも、其本領は已に此組織を超へて共同經濟の組織に移り、國民の一般的需要及提供の適合を計りつゝあるからである。然るに世界經濟には斯かる共同組織は發生して居ない。國民經濟と雖も自然經濟より意志經濟に推移する時代に於ては、專ら流通組織を整ふることを念とし、國家は之が爲めに國民たる箇人の自由を確保することに力を用ゐた。次で國民經濟が意志經濟として成熟し行くに從ひ、今度は共同組織を固成することを念とし、國家は之が爲めに箇人の自由を制限して憚らないやうになる。經濟生活に就て箇人の自由を制限し得ると云ふことは、國家に經濟生活上の自由意志が存することを證明するものである。尤も今日でも箇人の自由を主張し、或は官業が民業を壓迫するを不可とし、或は自由意志に出づる契約は公正なりとするが如き考へを懷く者もあれど、其は今日では通用しない。國家意志は、先づ一般的に國民經濟生活の安定及繁榮を計り、次で國民たる總ての箇人の經濟的安定及繁榮を計る。此の國家意志の前には箇人の自由意志は對抗し得ない。唯だ如上の目的を遂達しようとする國家意志力の强弱如何は、其のまゝ意志經濟の成長の程度を示すものであるが、とにかく國民經濟の現象

は目的實現の意志現象が中樞となつて居る。然るに世界經濟にありては、今正に世界交通に於ける國民の自由保障が要求せられ居る時代である。而かも是れすら僅かに國際經濟方面に於ける最も進歩せる意志統制の制度と見らるゝほどにて、萬民經濟方面に於ては全く自由以前の自然的放任に委ねられて居る。其處では目的と規範とを定立する意志なく、唯だ强者が支配する。無產者階級の萬民的同盟は今支配する强者に對し更により强くならふとする運動である。國內に於ける無產者階級の運動は其が實質に於て一の政黨運動なる限りは、單に有產者階級の政黨に對し國家意志の實現者たる地位を競爭するものたるに止まり、普通の政爭と軌を一にする。

是まで交通經濟の發達階段を說ける學者は、概ね國民經濟が已に意志經濟に進める特質を看過するか、さもなければ世界經濟も亦國民經濟と同樣の統一共同の經濟組織を具ふべきものと獨斷し、從つて其の孰れかの見地から、或は國民經濟の寄せ集めと擇ぶ所なき非社會性の世界經濟を云々し、或は現代に於ける世界經濟の存在を否認する。之に對し上述の如き國民經濟と世界經濟との特質を對比し見るならば、一の存在が他の存在を妨げないことが了解せらるゝであらう。但だ吾人が實際の現象を觀察するときは、二者の間に必しも概念的に區別したるが如き明確なる相違を見ないと云ふことは、寧ろ社會現象の常態である。國民經濟にも尙ほ流通方面に自然的傾向が少なからず殘留し、世界經濟にも已に國際立法に於て或程度の意志發動を認め得る。吾人は唯

だ現在する交通經濟の組織及運營が一般に目的實現の現象と認められ得るや否やに着眼する。國民經濟には國民全體及其の各箇人の經濟生活の保存及繁榮に就て思慮し決執しつゝある所の國家意志あるも、世界經濟には世界全體及各國民並に天下萬民の經濟生活に就て思慮し決執する所の世界團體意志は現に存しない。唯だ其點にて前者と後者とは經濟交通の系統及秩序に明かなる相違を來たし、二者は各々獨特の交通經濟として存立し得るのである。

六　結　言

要するに世界經濟の成立過程は、先づ第一に國民經濟が成長して意志經濟となることが出發點となり、第二に其國民經濟が對外方面に伸張し更に在内方面までも結付くに至つて國際經濟方面が形成せられ、第三に國民經濟の意志統制以外に立てる各箇經濟が國境を越へて相互に交通し更に國民經濟をも相互に關聯せしむるに至つて萬民經濟交通が形成せられ、第四に是の國際經濟と萬民經濟との兩方面が同じ世界に於て同じ自然力に制約せられて一體の交通系統及秩序を形成するに至つて終に世界經濟に到達するのである。

此の世界經濟の成立觀は主として意志團體としての國家を中心に置いて考察したるものである。世界經濟の成立を肯定する諸說と雖も多くは特に成立理由が明示されてない。唯だ經濟階級

の變遷を主眼とせる共產主義學說の世界經濟觀は、私見と對比して參考する必要があるから、茲に重ねて「ブハーリン」氏の「變轉期の經濟學」を引くであらう。氏の說によれば、今日の國民經濟は資本家階級が支配する所の合理的統制的なる統一經濟であるが、其等が相互に接觸して世界資本主義の下に盲目的無統制的の世界經濟を構成する。世界經濟には資本主義の最後の階段として帝國主義が流行する。然るに茲に世界資本主義に反抗して世界革命を目的とする勞働者階級の破壞運動が勃興して來た。此の運動の行程は、國民資本主義制の成熟の程度に由らないで、寧ろ世界資本主義の全環の中にて資本制組織の最も脆弱なる國民――卽ち露西亞を指す――に於て先づ成功し、其から漸次に資本制組織の薄弱なる國民を追ふて世界資本主義の全環を破壞し行く。而して革命を終れる國民は相率ゐて聯合組織を構成し其の結合力を以て他の國民の革命を促進する。最後に各國を擧げて世界革命が成功するときは其處に世界共產社會に到達する。此の社會は今の世界經濟と異れる合理的統制的世界經濟となる譯である。

此の說の中、今の國民經濟は資本家階級の支配なるが故に合理的統制的組織を有すると云ふ見解の當否に就ては先きに私見を述べて置いた。是では私も亦階級觀を前提として內在的に考へて見よう。現代の經濟階級の鬪爭には、明かに國內經濟に於て箇人の立場より爭ふものと國際經濟に於て國民の立場より爭ふものとの別があり、又勞働剩餘の取得に關する爭と富源剩餘の取得に

關する爭との別がある。「ブハーリン」氏の見解は單に國內に於ける勞働剩餘に關する階級鬪爭に着眼するのみにて、より大規模なる鬪爭舞臺たる國際に於ける富源剩餘の取得に關する階級鬪爭の方面を看過して居る。露西亞の革命は諸國の國內に於ける勞働剩餘の取得に關する鬪爭には、勞働者階級に加勢する意味に於て少からぬ刺激を與へて居るが、國際に於ける富源剩餘の取得に關する鬪爭に對して利害不明なる外債破棄の一事を除いては世界の勞働國民に貢獻する所は無いと言つてよい。國內の階級鬪爭は、國民の全觀的合成意志たる國家意志が健全に成長するに從つて解決されるであらふ。而して其國家意志の成長は各國民が具有する歷史の相續及開展に外ならないから、露西亞よりも遙かに劣等なる文化の經歷を有する國民を除いては、決して露西亞と同樣なる革命の行路を執る國は無いであらふ。併し如何なる行路を執るとしても多くの國に於て漸次に階級鬪爭が解決され、少くも著しく緩和され行くならば、萬民經濟方面に於ける階級鬪爭——萬民資本主義に對する萬民勞働主義の反抗、「ブハーリン」氏の謂ゆる世界資本主義と世界共產主義との對抗——は漸次に冷却し行くことは必然である。されど國際經濟方面に於ける富源剩餘の取得に關する階級鬪爭は今の所では容易に解決される見込が立たない。蓋し領分國家意志は已に實在するも世界統一意志はまだ存在しないからである。昔の政治家は國內の鬪爭を緩和する爲めに國民の眼を外交問題に向けしめるやうな術策を執つたが、今の自覺せる國民は主力を國內

問題の解決に注ぎつゝある。斯くて其爲めに國家意志がより健全となり、より成熟し來るときは、其の强き意志が國際經濟の方面に於て相接觸し、其處には內顧の憂なき國民間の鬪爭が繼續するであらふ。國際戰爭が專ら資本家の貪欲に基くと見るは盾の半面を見たるものに過ぎない。推論して茲に至らば、世界經濟が如何に動くかと云ふ問題は、其の主潮を階級鬪爭に置くとしても、階級の裡には國家の意志が最も重要なる役目を演ずることは爭ふことは出來ない。

凡そ國家は民族歷史を基礎として居る。前途の理想は正しく過去の經歷の軌道から出發して始めて實現し得らるゝ。民族感情を迷信なりとし直ちに萬民的感情――而かも箇體觀的萬民感情――に浸たりて獨り悅んで居る人々は、惡く悟つた老子の徒である。民族感情を分解して箇人意識に歸らしめようとするのは、恰も生物を分解して細胞に沒頭するが如く、其も硏究の一手段とはなるが生物の生動はもはや見られない。國民感情は嚴肅なる現實在である。國內に於ける勞働剩餘の取得に關する階級鬪爭が解決されても、其は歷史の重大なる一階段を越ゆるだけであつて國民經濟の實在性には何等の根本的變化を生ずることなく、否な寧ろ其時には國際經濟上の階級鬪爭が一層烈しく行はれて、民族國家を基調とする國民經濟の意志目的が一層鮮明に現はるゝであらふ。其際に國內に於ける資本家階級が全國民の幸福の爲めに其階級的利益を放棄し若くは然かすべく餘儀なくさるゝ如くに、米英露支の如き富源國民が、天下萬民の福祉の前に、富源獨占

の非を驀然として悟るか若くは實勢に迫られて悟るべく餘儀さるゝならば、其時始めて國際團體意志が國民意志と殆ど同等の地位に上ることが出來るであらふ。我等が世界共產社會に就て語るのは其よりも尙ほ更に後日のことである。交通經濟の發達階段に就ては、たとへ階級を標徵として考察する場合にも、尙ほ民族國家の存在に重要の意義を認めなければならぬ。

將來のことはともかく、現在に於ては自然經濟たる世界經濟の中に意志經濟たる國民經濟が各自の生活を營んで居る。國民經濟は其自らの生命を意識し目的を定立して生活するも其自らの範圍內にては生き得ない、少くとも人類文化の恩澤に浴するやうに生きようとするならば世界經濟の中に活動して其が始めて可能となる。斯く見るならば、我等が經濟學の研究を試むるに當りても此の現實の經濟現象に對應する必要がある。我等の經濟學には、國民經濟上の意志活動を對象とする國民經濟論と世界經濟上の自然運動を對象とする世界經濟論との二通りがある。勿論、國民經濟にも今尙ほ多分の自然運動が殘存し、意志統制も其自然運動を如何に目的に適應せしむべきかを思慮して制度や政策を決定する譯なるが、是處では自然運動の研究が主眼でなく其は意志活動の條件又は內容として考察せらるゝ。例へば國民經濟の貨幣交通も初め國家の統制なきときは、單に自然社會に流行する自然心理的運動に過ぎないが、國家の貨幣制度は此の自然運動を貨幣交通制の目的に照らして批判し、其目的に適合するやうに自然運動を操縱する。國民經濟論は

此の意志貨幣を研究の對象となし、貨幣の自然狀態を其中に包含せしむる。然るに世界經濟にありてはまだ貨幣交通に關する統制なきが故に、是處では唯だ貨幣が自然のまゝ價値移轉の手段となり又は資本となつて運動するに止まるから、世界經濟論は此の自然貨幣を研究の對象とする。但し世界經濟にも國際方面には已に半成的の意志を生じ居るから、其處だけは意志經濟に準じて取扱ふ必要がある。經濟學の對象は生きて居るから、絶わず變化し進展する。前期國民經濟・後期國民經濟・現在の世界經濟並に將來に起り得べき世界經濟が、自然・意志・自然・意志と言ふ順序に開展し行く。我等は其時代の研究對象が如何にあるかを見て之に對應する科學を構成しなければならぬ。從つて精確に言へば、今日、國民經濟は已に意志經濟となれるも尙ほ少からぬ自然經濟の殘滓を留め、世界經濟は尙ほ自然經濟なれども已に意志經濟の萠芽を出して居るから、此の過渡的狀態を考慮に入れて後、我等は對象より見たる經濟學の二大分野を區別するのである。

國民經濟が自然經濟たりし時代には、箇人・社團の如き各箇經濟體並に公共經濟體としての國家が意志經濟として獨立の地位を占め、其等の自然的結合の組織及運營が國民經濟を構成して居つた。故に此時代には自然經濟論たる國民經濟學の外に意志經濟論たる私經濟學及び財政學が、意志活動を對象とする所の獨立の學論たることを得て國民經濟學と對立した。然るに現代の如く國民經濟が意志經濟となれる時代にありては、國民經濟の統制者としての國家意志が私人の意志並に公共經濟としての國家の意志を包容し、小なる意志は大なる意志に統制せらるゝ。たとへ此

際に國家が團體統整主義を捨てゝ箇人自由主義を取るとしても、國家は其自由制の上に統一組織を建つるのである。斯くて意志經濟たる國民經濟を對象とする國民經濟學が成立するに至れば、從來の私經濟學及び財政學は學論としての獨立性を失ひ國民經濟學の部分たる地位に推移する。尤も其等と雖も經濟術學としては相對的に獨立し得るが、其術學の依據する經濟道學の部分は國民經濟學の系統の中に入らなければならぬ。斯の如く私經濟學及財政學が國民經濟學に吸收さるゝと同時に、以前の國民經濟學に代つて發生したるものが卽ち自然經濟たる世界經濟を對象とする世界經濟學である。將來、世界經濟が意志經濟と化して國民經濟學が獨立を失ふの日が到來するかどうか、其は後代の問題に屬する。

研究の對象が異れば研究の任務も亦相違して來る。自然經濟たる世界經濟に對しては恰も前期國民經濟及其以前の交通經濟に對する如くに、自然現象及自然法則を研究する一の自然科學が成立ち、意志經濟たる國民經濟に對しては恰も以前の私經濟又は公經濟に對する如くに意志現象及意志法則を研究する一の意志科學が成立つ。此等の二つは研究問題の性質も異り、又問題を解釋する研究方法も異つて居る。經濟學は此等二種の知識を、其等の對象が連絡する通りに聯關せしめ綜合したる一體系の科學である。此の經濟學の問題論に就ては尙ほ詳說を要するも、斯くては本問題を離るるから之を他日の機會に讓りたい。

均しく自然と言ふも動物以下の地物自然と意志に化成すべき人間自然とは著しく異り、人間自

然であつても自然箇人と自然團體とは又趣を異にし、均しく意志にあつても意志箇人と意志團體とは同樣に見ることは出來ない。是等の自然及び意志の特殊相に對しては其々異れる取扱をなすべきことは勿論である。併し自然と意志との區別ほど研究の對象として相違の明かなものはない。意志は覺めたる自然であり、自然は眠れる意志であるから、二者は一者の存在狀態の變化と見て其間に必しも嚴重なる區別を立つる理由がないやうにも考へらるゝ。又實にさう考へて二者の連絡をとるのである。併し先づ研究者としての我等は意志であつて自然でない。其意志が自然に由つて規定さるゝか或は其反對であるかは研究の結果たる所の一の知識として說明せらるまでゝあつて、研究せんとする意志は嚴として自然から獨立して居る。科學的研究にありては此の直接內經驗から出發し、二つの對象に適應する自然科學と意志科學との對立を認めなければならぬ。自然運動の意志的解釋又は目的觀的說明と意志活動の自然的解釋又は原因觀的說明とは、共に科學としては急ぎ過ぎた一元觀の獨斷論である。意志たる我等を自然と見ようとするならば其意志から解脫して大自然卽ち本然の世界に入ればよい。自然たる地物までも意志と見ようとするならば、更に本然から覺めて大意志卽ち精神の世界に入ればよい。其處には形而上學が我等の要求を充さうとして居る。科學の關する限りは、例へば我が生糸の價格が世界市場の景氣に連れて上下する現象と我政府が米穀法及關稅法に依つて米の價格を左右する現象とは、之を區別して考へなければならぬ。（完）

前々號第七十五頁二行目の「國際經濟」は「國民經濟」の誤り。